

## 【厚生労働大臣賞：小学生の部】

### 「心の中で」

福島県・須賀川市立西袋第一小学校  
6年 永瀬 圭志朗 さん

ぼくの身近には、こんな女の子がいます。

その女の子は言葉が話せません。自分の身の周りの事を自分ですることが難しいときが多いです。言葉で自分の気持ちが伝えられないので、急に大声を出したり、おこったり、泣いたりします。うれしいときは笑顔になったり、うれしそう声を出したりします。好きな物は風、プール、ピアノの音、遊園地、野菜など、たくさんあります。きれいな物は、病院、つめ切り、変わった食べ物などです。

もしこのような女の子を見たとき、どんなふうに思いますか。もしかしたら、「少し変な子だな」と思う人もいるのかもしれませんが。実際に、いっしょにいる時、変な目で見られた経験があります。

たしかに、周りの人とは少しちがうので、そのように思うのかもしれませんが。ぼくも、もし身近にいなかったとしたら、そのような目を見ていたかもしれません。もしかしたら、それがふつうなのかもしれません。でも、身近にいてくれたから、見られる側の気持ちに気づくことができました。

この間、こんな出来事がありました。お盆に親せきみんなが集まった日、三才の女の子が不思議そうにその女の子を見て、

「どうしてしゃべれないの？」

と、きいてきました。すると、その三才の女の子のお母さんが、

「お話しはできなくても、心の中ではお話ししているんだよ」

と、優しく教えていました。そのやり取りを聞いて、心がほんわか温かくなりました。そして、周りのみんなも同じように、うれしそうに見ていました。

この三才の女の子のお母さんの言うように、心の中で自分の気持ちを話しているのです。今はうれしそうに笑っているから、心の中でも、うれしいよ、楽しいよ。と、話しているのかな。今は泣いているから、心の中では、これはやだよ、悲しいよ。と、話しているのかな。と、心の声にちゃんと耳をかたむけてあげられる人になりたいです。

ぼくは、障がい者という言葉があまり好きではありません。その言葉によって、特別な見方をされてしまうからです。障がいを持っているからといって、全くち

がっていると思われることは、とても悲しいことだと思うからです。心で感じる  
こと、思うことは、みんな同じだと思います。だからこそ、障がいという言葉  
つかわずに、みんな同じように関わってほしいと思います。みんなが気軽に  
声をかけたり、声をかけられなくても、優しい気持ちで見守ってあげられるよ  
うな社会になってほしいです。

ぼくは、その女の子の笑った顔が大好きです。うれしそうにぼくのほうを見て  
くれると、ぼくもうれしくなります。これからももっとたくさん話しかけたいで  
す。笑った顔をもっとたくさん見ていくことができたらいいなと思います。